

新学期が始まり、一年生も入ってきて自治活動、クラブ活動も新しい出発を感じて、準備が進んでいる様だ。昨年消えていたたの会をすでに貢と同様昨年の都立の動きを、自治会活動を中心検討して見た。

昨年度、本校では、受験に対する自治活動、学校全体の活動が話し合って解決しようという動きがありましたが強くなっていたようである。

四月の最初の生徒大会において、も喜ぶ形で敗北し、一人で自身の中などじるって考えていく動かしが強くなっていたようである。

五十四年度後期自治委員長が「新しい問題解決の方針として話し合つてある問題が本校において生まれつづつある」と述べた。四月一日に実験した際に伴う自治活動クラブ活動の不活発、就職、アルバイト、女子高生の問題等多数の高校生の懸念を持つ中で、身分の問題をすこしずつ高めようとした全国高等学校会議の動きが開かれた。大きな運動となり、六月十九日に都高校生会議が開かれ、一年生多数名が参加し、私達は、身近な問題、受験と自治活動の二等が話され、先のような自らの問題を話し合つて少しずつ考え方をよどみ見えた。

しかししながら、問題が決して解決しないで、共通の問題の動きは、さうに強まつた。また都高校生会議の財政困難は、大きな運動となり、六月十九日に大いに発足し、共通の問題の大いに発足し、共通の問題の動きは、さうに強まつた。

この問題を話し合つて少しずつ考えられたためか、結果消えていった。また都高校生会議の財政困難は、だんだんおとろえ打かれたためか、だんだんおとろえ打かれたためか、結果消えていった。また都高校生会議の財政困難は、だんだんおとろえ打かれたためか、結果消えていた。また都高校生会議の財政困難は、だんだんおとろえ打かれたためか、結果消えていた。

おわり、五月、六月における。クラスマッチ等の成功をも含む話の動きは、だんだんおとろえ打かれたためか、結果消えていた。また都高校生会議の財政困難は、だんだんおとろえ打かれたためか、結果消えていた。

ついで、その他の問題を話し合つて、その得たものが、その後の実際的行動へ授業料値上げ反対運動において、登場一致で決議した。しかしこの生徒大会は、全くの低一票で、差押されなかつたという。

一九五五年度の回顧

停頓だった昨年の活動を反省し、現在の私達を取りまく情勢を考

え、今年の自治活動の方針を考える手がかりになる事だろう。なお都高時報バツクナン

現在の情勢のなか、十分にできることはないが、都立に於ける

顧と同様昨年の都立の動きを、自治会活動を中心検討して見た。

調で、人をかせぬ態度により、なんの討論もなされず決定されたのであり、その結果、九月に入つての署名の集計結果は、四百五十にも満たないものとなつてあらわれた。

そしてこの他人をかせぬ傾向は、本年一月に入つてさらに強まっていった。すなはち、一月十四日に都教育委員会は、問題を残してしまつたとき、自治委員会では、全くそれに対する反響もなく、公立高校の授業料の値上げが具体化してきたとき、自治委員会では、これに反対することを決議し、全校によびかけていた。

だがこの動きは、結局は、自治委員あるいはその中の二、三人の動員あるいは、都議会への陳情も、このみならず、都議会への陳情も、單に出かけて行ったといふことだけになってしまった。私達の経験が終つてしまつた。

このように、本校においては、生活における重要な授業料の問題で、一度も――自治委員会でのアンケートが示すように、本校においてさえも、困る人がいる――全く無関心で始終され、ここに自治委員会が身のまわりの問題をとりあつかわないので、自治会に対する関心が低いのだという論が誤まつてゐることが明白にされたのである。

又十一月末の一橋大教授上原専務先生をまねての講演会は、記念祭以来の要望の結果として、成功したという声もあるけれども、先生の講演内において、受験や社会の問題に対する私達の態度に対する批評をしており、私達がそれを感激して聞いたにも拘わらず、その得たものが、その後の実際的行動へ授業料値上げ反対運動において、登場一致で決議した。

しかしこの生徒大会は、全くの低一票で、差押されなかつたという。

もとより待つ構えているのです。でも、米国製のあのいまわしいカーキ色の軍服で、私達は

て、憲法の改悪が行なわれようとしておりわれわれから自由がうばわれ様としているときある。この彼等が意識していとほどの運営をする事であつて、一言れておく必要がある。

彼等は昨年の四月三年生になり、修学旅行を迎へたが、経済的理由で参加できない友の為に、いや皆で旅費を払つて、収益をこれにて、このようなると、戦前の学問、思想案はもとより、小説区制によつて、三年生である。

今年の、入試の結果は、都立を一所で、層子備校として利口的な人間を沢山作る事であつて、この際必要な事は、私達が、受験に道かけられないので、自由にのびのびと勉強できる社会が、作られ、いや自ら作る迄、私達の周辺から、警戒していく人々を出さない様にする事である。

昨年度の回顧最後は、クラス・マッチ、新制第七回記念祭について。

今年の、入試の結果は、都立を一所で、層子備校として利口的な人間を沢山作る事であつて、この際必要な事は、私達が、受験に道かけられないので、自由にのびのびと勉強できる社会が、作られ、いや自ら作る迄、私達の周辺から、警戒していく人々を出さない様にする事である。

記念祭は、今年も、無理がなく充実した記念祭にしてゆかな

ければならない。

た。それから、今春の大きな成績は、得られなかったが、謝恩会の件。

H・E・バー・マ著

日本を目標として完備した英語辞典

一五六〇円

六五〇円

佐々木達・皆川三郎共編

新英々大辞典

日本を目標として完備した英語辞典

一五〇〇円

二二〇〇円

二二

